

10、11月の米国景気・物価動向

ポイント① 企業景況感は堅調

金融市場では米中貿易摩擦やこれまでの米国での利上げなどを背景に、米景気の先行きに対する警戒感が生じています。しかし、米企業の景況感は足元まで概ね堅調なようです。11月のISM（サプライマネジメント協会）景況感指数は製造業、非製造業とも前月より上昇し、水準も依然かなり高いところにあります。

11月の非農業部門の雇用者数は、前月比15.5万人増と10月の23.7万人増を下回りました。ただし、10月は9月のハリケーンの影響の反動で増えた面があります。また、人手不足感がある中で新たな採用が難しくなっているようです。

11月の民間非農業部門の時間当たり賃金は、前年同月比3.1%の上昇と10月と同じ伸びとなりました。緩やかな賃金の上昇基調は続いていると見られます。

ポイント② 物価上昇圧力は低下

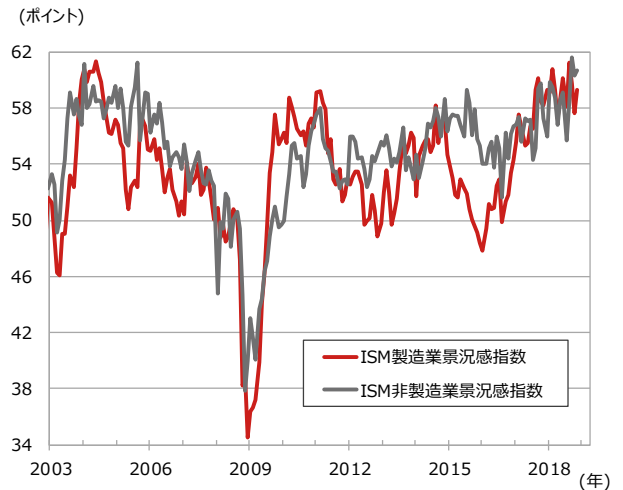
一方、物価面では、商品価格の下落などにより上昇圧力が低下しているようです。ISM製造業支払価格指数は、11月には60.7と、2017年7月以来の水準に下落しました。コア個人消費支出デフレーターの前年同月比上昇率も、9月の1.9%から10月には1.8%に低下し、FRB（米連邦準備制度理事会）の2%インフレ目標を下回っています。

ポイント③ FOMCは来年の見通しに注目

物価上昇圧力がやや低下しているものの、企業の景況感が堅調であるなど、米景気に大きな減速感が見えないことから、12月18、19日開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）での0.25%の政策金利引き上げはほぼ確実と見られます。注目されるのは、FOMC参加者が来年の米国の景気、物価、金利の予想値を下方修正するかどうか、という点でしょう。

図1：米国ISM景況感指数

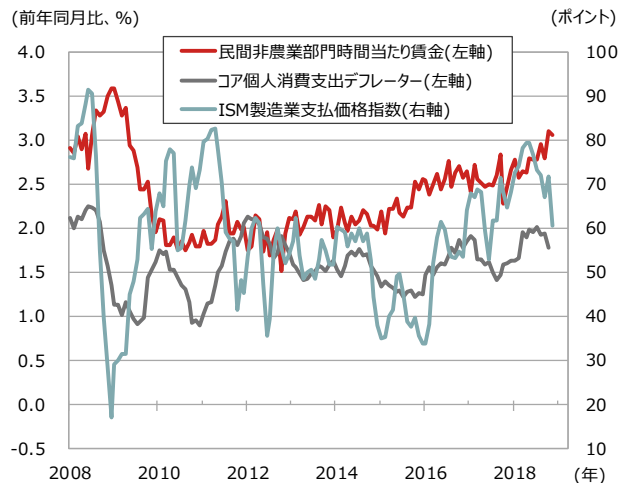
期間：2003年1月～2018年11月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米国の賃金・物価動向

期間：2008年1月～2018年11月、月次



(注) コア個人消費支出デフレーターは、エネルギー、食料品を除く。期間は2018年10月まで。

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

12月12日 米消費者物価指数（11月）
12月14日 米小売売上高（11月）
12月19日 米金融政策発表